

南希タイムズ

新たな感染症

新型コロナウイルス

～今の私たちにできることは～

新しい学校生活が 新型コロナウイルス禍で始まる

皆さんは、新型コロナウイルスについて、どれくらい知っていますか。

コロナウイルスとは、形が太陽の光冠(コロナ)や王冠(ギリシャ語でコロナ)に似ていることから名前がつけられました。

今回、騒がれている新型コロナウイルス(COVID-19)は、二〇一九年十一月末に発症し、世界に広まった感染症です。

新型コロナウイルスにより、私たちの生活は大きく変わりました。

学校生活でも始業式や生徒総会、終業式などがテレビ放送になったり、マスクを着用したりするなどといういろいろな場面で影響がでています。

新型コロナウイルスは、風邪やインフルエンザによく似ています。



COVID19(新型コロナ)

しかし、症状が続く期間がインフルエンザや風邪などに比べて長く、息切れのような症状がみられるという特徴があります。

新型コロナウイルスの典型的な経過は、発症してから一週間程度は風邪のような軽い症状が続き、約八割はそのまま治癒します。

しかし、約二割弱と考えられる人は、そこから徐々に肺炎などの症状が悪化して入院に至ります。

さらに、五〜十%の症状で集中治療が必要になり、ICU(集中治療室)に入院し、三〜五%の事例で致命的になるとされています。

このような、恐ろしい新型コロナウイルスに感染しないために、私たちにできる対策とは何か、保健の土田先生に伺いました。



保健の土田直美先生

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

学校で、中学校は西谷中学校「とお答えいただきました。

また、中学生時代の部活動は、男子バレーボール部に所属していたそうです。

中学生時代の趣味は何ですか、という問いに、「独学でギター」と「無線通信の受信報告書(BL)を集める」という趣味があったとお答えいただきました。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

横浜市立南希望が丘 中学校 美術部
編集長 若松 彩花
副編集長 松村 春奈
記者 中泉心、中泉文
梶浦、八木橋、小野寺
小島、谷藤

生徒会長の熱い思い

二学期が始まって三週間が経ちました。

これまで生徒総会や始業式で活躍してくれた生徒会長の山田果莉那さんに「これからの活動についての思い」を伺いました。

まず、始めにこれまでの活動はどうだったかの質問に、今まで歴代の会長が来ていたことが私には上手くいかない、といったこと

力を上げる為に、しっかりと睡眠や食事をとること」「適度にストレスを分散して、規則正しい生活を送ること」が大切だとおっしゃっていました。

そして、今の時期は熱中症も恐ろしいです。

状況に応じて、マスクを外すことも大切だとおっしゃっていました。

最後に、これからの私たちに求められる行動は、「身近な人が新型コロナウイルスに感染してしまったときに、軽蔑したりいじめたり差別するなどの行為を絶対にしないことが大切」とおっしゃっています。

逆立ちだと同じでした。逆立ちには中学生時代に九m、高校生時代には二十mも進んだとおっしゃっていました。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。

また、「自分自身の免疫を高める」とおっしゃっています。



内田克弥校長先生

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

を伺いますと、まだまだ山田会長ですが、自分の出来ることを実行していきたいです。



生徒会長 山田果莉那さん

夏休み Zoom体験

皆さんは、Zoom(ズーム)を知っていますか。

ZoomとはZoomビデオコミュニケーションズが提供するクラウドコンピューターを使用したWeb(ウェブ)会議サービスの名称のことです。

Zoomサービス内にミーティングルームを開設し、ミーティングIDやパスワードを共有する人同士で無料でWeb会議を行うことができます。

このZoomを使って夏休み中にZoom体験会が行われました。

Zoom体験会では、友達や先生と通話をしたり、絵しりとりをしたりするなどの、レクリエーションが行われました。中には、「声が聞こえない」「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

「画面が表示されない」「接続ができない」などといったトラブルによって参加できなかった人も多かったです。

しかし、参加を希望していたほとんどの人が繋がり、

授業の風景
いつも大きな笑い声が聞こえてくる工藤先生の英語の授業。

一年生のみんなが思う工藤先生の授業のイメージを聞いてみると、「楽しい」「テンションが高い」「ノリがいい」「ゲームが多くて分かりやすい」として一番多かったのが「面白い」でした。

たしかに、工藤先生の英語の授業では笑っている人がとても多いと感じます。

また、工藤先生が授業で意識していることは、「みんなが英語を使う機会を多くすること」「笑顔になれること」「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して

「一人ひとりが安心して



いつの笑顔の工藤先生

発言ができる雰囲気を作ります」とおっしゃっていました。

考えてみると、工藤先生の授業はとても発言がしやすく、楽しい雰囲気を作っているように感じます。

次に、工藤先生が教師を目指そうと思ったきっかけを聞いたところ、「人の成長や笑顔」「人の幸せが自分の喜びや幸せになること」だと感じました。

私は工藤先生のインタビューを通じて、工藤先生は私たち生徒のことをよく考えてくれていて、そのことを改めて知ることができました。

「勝見」

「勝見」

「勝見」

「勝見」

「勝見」

「勝見」

「勝見」

「勝見」

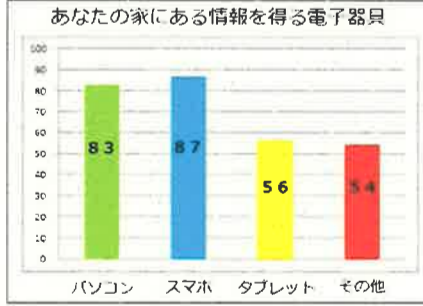
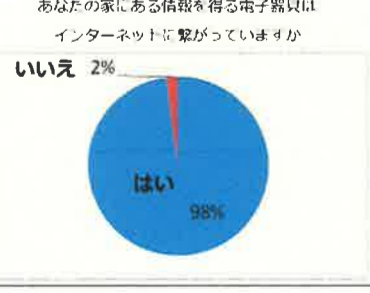
編集後記

この度は、南希タイムズをご覧いただきありがとうございます。

私たちは、美術部の中に新しく設立したパソコン班という場所で、活動しています。

南希中生の皆様に「面白い」「ためになる」と思ってもらえるような新聞製作を日々務めて参ります。どうぞよろしくお願致します。

「若松」



南希中プ子個展



1年3組 早川柚音
作品タイトル「ハカセ」
もうちょっと上手になりたい。

1年2組 佐々木美穂
作品タイトル「美術部のカメラマン!!」
この作品は、私の夢の中に出てきた子です。夢に出てきたのを全ては覚えていないのだけど、手がスラスラと動いたので、この作品を描くのがとても楽しかったです。

3年1組 木村未来
作品タイトル「りんご」
もうすぐ秋なので、旬の果物を描きました。

あなたに 伝えたくて	テーマ 未来の為に受け継がれる思い	記者 若松 彩花
-----------------------	-----------------------------	--------------------

きょう終戦75年 コロナ受け追悼式縮小

八月十五日 朝日新聞

75回目の終戦の日を迎える15日、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館(東京都千代田区)で開かれる。天皇、皇后両陛下、安倍晋三首相をはじめとする三権の長らも参加。新型コロナウイルス拡大の影響で、規模を大幅に縮小し、参列者は前年の1割未満にとどまる。

▼10面II社説、27面II連載「コロナ禍の夏に」

追悼式には全国の遺族224人、国会議員、経済団体幹部ら計約500人が出席する。遺族の高齢化が進む中、今年は感染への懸念から20府県が遺族の参列を見送った。感染防止対策として、参列者はマスクを着用し、式典での国歌斉唱は行われない。

追悼式は午前11時51分に始まり、正午から1分間、黙禱を捧げた後、天皇陛下が「おことば」を述べる。

厚生労働省によると、6日時点で参列予定の遺族のうち85歳以上は15人(5.1%)で、戦後生まれは82人(28.1%)と世代交代が進む。戦没者との関係では、子が最も多い174人(59.6%)で、おひい、おひいおひい(18.8%)、孫が23人(7.9%)と続く。

15日は全国40都道府県でも自治体などが主催する追悼行事があり、約7千人が参列を予定する。(長谷文、石川春彦)

今から七十五年前にも、太平洋戦争が起き、多くの方が亡くなりました。追悼式は、このことを今も忘れないように、みんなで参列して、追悼式を行います。

追悼式は、戦争の恐ろしさを知り、平和を大切にする気持ちを伝えていく大事な行事です。私も参列して、追悼式を行います。

追悼式は、戦争の恐ろしさを知り、平和を大切にする気持ちを伝えていく大事な行事です。私も参列して、追悼式を行います。

(若松)